

## ＊ ロシア 紀行（第 11 回）

### 帝国ニュース九州版

オーポラロシア福岡（一般社団法人日本・ロシア連邦チュヴァシ共和国友好協会）の田村文彦です。オーポラロシア福岡は、日本とロシアの友好親善・学術及び文化、経済交流を盛んにして、交わりを深めて行き、ビジネス展開がスムーズに行くよう中小企業応援の為の団体です。オーポラロシア福岡は、全ロシアをテリトリーとして活動を行っています。私共は、モスクワを中心に西はサンクトペテルブルグから東のウラジオストックまで広範囲な地域で活動を行っています。

日本の病院は、入院中 朝や昼及び夕刻に看護師が病室で検温や血圧及び体の状況を確認し、データとして記録をします。そのデータをドクターと共有し、的確な医療スケジュールを立てて行きます。ロシアの場合は、このような検温や血圧測定の動きは有りません。必要な場面のみが多いようです。

日本の病院へ入院した場合、殆どの患者が点滴に御世話になります。看護師は老人から子供まで、血管を慎重に探し、その患者の血管を考慮し注射針の大きさを替えたり針の大きさも極細の針が多く使用されるようになりました。針を刺す時、看護師は痛い時はすぐさま言って下さいね！と聞いて来ます。ロシアの場合、私が知る限り老人から子供まで同じ大きさの針を使用されていて、血管の細い患者には気の毒に思う事が有ります。針を刺す瞬間、イメージとして「ブスッ〜」と音が聞こえそうです。針が血管からずれたり、外れたりして痛みが出ますが、漏れたり痛みで沁みになったり、針を刺したところが堅くなったりした人を見かけます。

日本の場合、このような状況が続くと、変な噂が広まり病院は閉鎖の憂き目となる事でしょう。日本人が思う病院のあり方とロシア人が思う病院に対する考え方には大きな違いが有りますね。この頃、いつも思うのですが、ロシア人が日本の病院で診察を受けたり入院した経験を持った場合、帰国後 ロシアの病院に行きたくないでしょうね。ロシアの一般的な入院専門病院の病院食について解らない部分も有りますが、外国人も入院している病院の場合、朝食が 9 時頃・昼食が 13 時頃・夕食が 18 時頃です。15 時～16 時頃に果物が出たりします。日本の場合は患者の状況に合わせ、おも湯から始まって常食や糖尿患者まで約 7 段階の指定された食事



が病室まで運ばれて参ります。日本人として思えばあたりまえの事ですのでこんな事を書くな！と言われそうですが、ロシアの場合は、病院食の考え方に違いが有りますので紹介します。各フロアに食堂が有ります。食事の賄いのおばさまが、食事ですよ！と各病室へ聞こえるように伝えます。

患者達は食堂へ移動し、行列して食事を貰い、食堂で食べたり食べ物を病室へ持って帰り食べたりします。朝と夕は、日本の御粥に似たソバや麦で出来た「カーシャ」と何種類かのおかずですが、昼食は3食の中では一番良いものが出たりします。



そのような事で、日本のように病室まで食事の配膳は有りません。

しかし、外国人のように高額な入院費用を払った患者の場合は、サービスなのか業務なのかは解りませんが、賄いのおばさまが病室まで持って来たりする場合も有ります。

モスクワの場合、各家庭が暖房器具を購入する事無く、地域暖房が整備され真冬でも快適な生活を営む事が出来ます。風土病は有りませんが問題も多く、各家庭の室内全体が乾燥していますので、喘息・鼻咽頭炎・喉頭炎・車社会ですので排ガスにより病気になるケースが多く見られます。交通事故死も日本の5~6倍も有り、死亡しなくてもケガ人も多く発生しています。結核は、日本も増えつつ有りますが、日本の4倍はいるようです。

病院に行かなくても薬局で薬を購入する場合も有りますが、たくさんの種類が有り、どの薬がどの程度効くのか解らないものも多く、薬剤師に聞いても明確な答えが返って来ません。薬はロシア語で書かれて居り、外国人の場合、戸惑う事ばかりです。どちらにしても、日々の生活の中で病院は切っても切れない大切な存在なのです。ロシア政府は先進各国と同レベルの医療改革を進めていますが、医療現場のスタッフに医療技術の進んだ国の医療関係者と交流しなければ、改革の指示を受けてもどうして良いか解らない場合も見え隠れしています。極東やシベリア方面では、生まれて他界するまで西洋の薬剤を一度も飲んだ事が無い人もいます。



初めて聞いた時は驚きましたが、自然豊かな地域には、たくさんの植物が群生して居り、伝統的に煎じたり食べたりしながら体調の維持管理をしているんだと気が付きました。中国で言えば漢方と言ったところでしょう。そう言えば、「エレウトロコック」（日本名：蝦夷ウコギ）を土産で買って来る事が有りますが、アルコールの飲み過ぎで二日酔い防止を目的に飲んでいましたが、3月のある日、花粉症で化粧が落ちるくらい苦しんでいた飲食店のママに「エレウトロコック」の錠剤を10粒飲ませました。もちろん二日酔い防止の為にしました。翌日の昼に連絡が有り、二日酔いにはならなかった、それより花粉症の症状が無くなったと言って来ました。何人か、花粉症で苦しんでいるメンバーがいましたので、錠剤を飲ませたところ、6割のメンバーから花粉症が無くなりました。今も理解出来ませんが、シベリア方面しか採取できない植物がある事を知りました。ちなみにこの「エレウトロコック」は大量に国外への輸出禁止になっているそうです。（日本では販売されていません。）

1940年11月3日大阪府生まれ、

早稲田大学第二政経学部卒。

現在、オーポラロシア福岡 会長

一般社団法人 日本・ロシア連邦チュヴァシ共和国友好協会 会長、

一般財団法人 美しい日本創造機構 会長

〒812-0872 福岡市博多区春町 3-5-18

TEL092-502-3753

URL <http://www.japan-chuvash.com>

